

てびねり

四月号

平成22年4月1日発行
株式会社ゆしま陶助

東京国立博物館

春の庭園開放

会期 3月中旬～4月18日まで
場所 東京国立博物館 本館庭園



博物館でお花見を！のキャッチフレーズで今東京国立博物館本館北側の庭園が開放されています。広大な庭には、ソメイヨシノを始めオオシマザクラ、シヨウフクジザクラ、エドヒガンザクラ、緑がかつた花が美しいギョイコウザクラなど10種類もの桜が次々と開花する庭園は一年でも一番美しい季節です。
池の周りに小堀遠州が建てた「転合庵」(写真下)をはじめ5棟の茶室があり、すみれやタンポポなど季節の花が咲き乱れております。
また、この庭園は珍しい樹木や野草が研究のため植えられていた時期があり、大都会の中で息づく珍しい樹木や野草に出会うのも楽しみの一つでもあります。
五代將軍徳川綱吉が献納した五重塔や由緒ある石碑や灯籠を見ながら博物館のお花見をお楽しみください。

期間 4月18日まで
時間 9時30分～17時00分
料金 600円(70歳以上無料)

◆今月の制作風景

□佐々木志保子さん
ご飯用の土釜を制作中。



□吉川睦子さん
変わり型の花器です。



□佐々木佳さん
そば猪口の絵付けです。
失敗しないように慎重に！



□近藤律子さん
ロクロも様になっていきますよ。



□奥村千恵子さん
すてきな花入れが焼き上がり
ました。



□小窪猛さん
大きな皿にチャレンジ！



□保科典子さん
ピアタンブラーのキリ吹きで
釉薬を掛けているところです。



初級コース

□高木照さん
2月入会、4月から本科です。



初級コース

□井上靖子さん
3月入会、楽しいです。



初級コース

□牟田早織さん
3月入会、鉢の削りです。



初級コース

□五位野豊さん
3月入会、皆さんよろしく！



親子陶芸

□鶴本和子さん・彩姫ちゃん
彩姫ちゃんは6歳です。



湯島界限 美味しい店

創作中華料理

龍膳(りゅうぜん) 上野店

台東区上野一十六 十六
電話03 5807 2826

10年ほど前まで湯島にも「リトル香港」という美味しい中華料理の店がありました。
この「龍膳」は規模の違いこそあれ、味は「リトル香港」に勝るとも劣らないおいしい中華料理の店です。
今年3月開店したばかりですが、オーナーご夫妻も厨房のニックさんも中国上海出身の方で、本格的な中華料理を提供しています。
新御徒町にも店があり「薬膳かゆ」で人気がありますが、ここは2号店ということとなります。



写真右 = 中華創作料理 < 龍膳上野店 > の入口
場所 = ゆしま陶芸倶楽部を右に出てすぐ右折して左側。(徒歩30秒)
写真左 = 龍膳のスタッフ一同 左二人がオーナーご夫妻

上海、広東料理をベースにした料理が主体ですが、ランチも種類が豊富で人気があります。夜のグループでの小宴会や送別会、忘年会、新年会なども2階の宴会場で出来ます。
オーナーが常に厨房に入り、味をチェックしている店です。
一度お出かけください。
ゆしま陶芸倶楽部会員と言えは何かサービスがあります。(佐藤)

今月の作品

□平石規代さん「カップ&トレー」



呉須のストライプが斬新さを演出しています。

□岡部厚子さん「菊花皿」



厚く作った皿を削り出した菊花皿。白萩釉が素敵です。

□山口和江さん「鉢カバー」



竹で編んだ籠のように彫った劣作です。上部をトルコ釉、下は油滴天目釉。還元焼成しました。

□小宮昌子さん「だ円皿」



油滴天目に白萩釉でアクセントを付けた使いやすい皿。

□中岡公子さん「四方台皿」



30センチもある皿です。石ころでアクセントを付け、トルコ釉を少し濃く掛けた作品です。

□中原玲子さん「三角鉢」



黄瀬戸に織部の掛け合わせですが、三角の形がユニークです。

□片柳拓子さん「染付鉢」



呉須と弁柄で下絵付けをして透明釉を掛け還元焼成した染付釉鉢です。

□小林和彦さん「多様鉢」



土鍋用の白土で作った多様鉢。黄瀬戸、織部、ルリイラボを掛け焼成は土鍋と同じです。

□坂本のぶよさん「タジン鍋」



五つのリングがポイントのタジン鍋。鉄赤の色がいいですね。タジンはアラビア語。煮込み用鍋。

右側の作品

洋風の料理にも使える長方形の土鍋です。深さもあり多様に使えます



□宮崎誠仁さん「土鍋」

大きさもモダンな染付も時間を掛けただけのことはある作品です。いいですね。



□石黒郁子さん「三段重」

「お知らせコーナー」

今年2月上野公園にある、東京都美術館で開催された「ほっぷすてつぷ展」に出品した、当ゆしま陶芸倶楽部会員山本美津子さんの作品「織部釉亀型蚊取り台」が見事入賞を果たしました。おめでとございます。

左の写真は入賞作品を制作中の山本美津子さんです。



「織部釉亀型蚊取り台」左の写真は出品した赤土で作ったリアルな陸亀の形をした香取り台。織部釉を薄めに掛けて濃淡を付けた見事な作品です。



見た事・聞いた事・読んだ事

歴史から学ぶ？

詩人の相田みつをの詩には人生を諭すような窮屈な響きがありあまり好きではありませんが、次の様な詩を目にしました。「なぜ歴史を学ぶことが大切なのか」と題して産経新聞に載った八木秀次氏の特別寄稿から抜粋させていただきます。

「自分の番 いのちのバトン」

父と母で二人 父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと
十代前で 千二十四人
二十代前では？
なんと百万人を越すんです
過去無量の
いのちのバトンを受け継いで
いまここに自分の番を生きている
それが あなたのいのちです
それがわたしのいのちです

たくさんのご先祖様がいて私たちが存在するということをつたった詩です。
一世代を30年とすれば、二十代前で六百年前、四十代前で千二百年前、六十代前では千八百年前ということになります。
結論は、日本は歴史上人口移動のほとんどない国だから、千八百年前のこの日本列島に住んでいた人たちの子孫がそのまま今日の私たちなのだ。
「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」といわれています。自分の短い人生の経験よりも、ご先祖様たちの数えきれない多くの経験から学ぶほうがよほど賢明で、政治家や官僚が自らの数十年の経験を頼りにするよりも、困難に対峙した場合、歴史に学ぶ方が賢明な判断ができること述べています。私はお彼岸には墓参りに出かけるのですが、ご先祖さまを思い出すのはそんな時位で、普段はほとんど忘れていたのですから間違いない愚者以下といえます。しかし、先祖から学ぶことを、歴史から学ぶと置き換えればそれが人生を豊にするというのは本当なのかも知れません。(佐藤)